

修士論文(要旨)  
2012年1月

ケーススタディ:在日中国人児童の中国語と日本語の習得状況  
-リナの一年半-

指導 佐々木倫子 教授

言語教育研究科  
日本語教育専攻  
210J3011  
杜佳欣

## 目次

第1章 研究の概要	エラー! ブックマークが定義されていません。
1.1 研究の背景と目的	エラー! ブックマークが定義されていません。
1.2 先行研究	エラー! ブックマークが定義されていません。
1.3 調査概要	エラー! ブックマークが定義されていません。
第2章 リナの中国語能力	エラー! ブックマークが定義されていません。
2.1 中国語の喪失	エラー! ブックマークが定義されていません。
2.2 結果と考察	エラー! ブックマークが定義されていません。
第3章 中国語と日本語の会話力 —OBC会話テストの結果—	エラー! ブックマークが定義されていません。
3.1 OBC会話能力測定の必要性	エラー! ブックマークが定義されていません。
3.2 OBC会話能力テスト	エラー! ブックマークが定義されていません。
3.3 中国語OBC会話テストの結果	エラー! ブックマークが定義されていません。
3.4 日本語OBC会話テストの結果	エラー! ブックマークが定義されていません。
3.5 中国語と日本語のOBCテスト結果の評価分析	エラー! ブックマークが定義されていません。
3.6 結果と考察	エラー! ブックマークが定義されていません。
第4章 保護者の言語教育観	エラー! ブックマークが定義されていません。
4.1 保護者インタビュー	エラー! ブックマークが定義されていません。
4.2 考察	

ラー! ブックマークが定義されていません。

第5章 考察と今後の展望	エ
--------------	---

ラー! ブックマークが定義されていません。

5.1 総合的な考察	エ
------------	---

ラー! ブックマークが定義されていません。

5.2 今後の展望	エ
-----------	---

ラー! ブックマークが定義されていません。

【参考文献】	4
--------	---

## 第1章 研究の概要

近年、両親の都合によって、日本に連れて来られる中国人児童生徒が多くいる。中国人児童生徒のうち母語が十分に発達する前に、新しい言語環境に移動した場合、母語を喪失する恐れがある。これに関する先行研究は岡崎(2000)、中島(2008)がある。稿者は移動した児童の母語喪失と新しい言語の習得を研究テーマとした。そして、本研究では、8歳で来日した中国人児童リナ(仮名)のケースを取り上げ、来日後の中国語と日本語の習得状況を観察し、OBC会話テストを利用し、中国語と日本語がどのように変化していくかを調査した。そして、リナの2言語学習に影響を与える要素としての保護者の言語教育観を分析し、在日中国人児童が抱える言語学習の問題の解決に多少でも寄与したと考えた。

## 第2章 リナの中国語能力

宇佐美(2003)を参考に支援過程の録音データを文字化し、分析を行った。リナの中国語と日本語の言語切り替え現象、ピンインの喪失過程および傾向、読み書き能力の喪失過程及び傾向と日本語優先の現象の4つの結果により、リナの中国語喪失の状況を明らかにした。そして、リナの中国語喪失を食い止め、中国語学習を促進するために、家庭内での言語環境を厳しくコントロールすること、中国語に接触する時間と質を増やすことと、家庭内での読書と漢字書きの練習をするなどを提案した。

## 第3章 中国語と日本語の会話力—OBC 会話テストの結果—

Cummins(1984)によると、バイリンガル言語環境で育てられる子どもの母語能力の伸びは第二言語の発達に重要な影響を与えるのであり、子どもの母語会話能力を測ることも重要だという。そこで、

OBC 会話テストを利用し、リナの 2 言語の会話能力を測った。中国語と日本語のテストの評価では、中国語の全体的な平均点数は 3.9 点で、日本語の全体的な平均点数は 3.3 点であった(満点は 5 点)。中国語の OBC 会話テストの評価と日本語の OBC 会話テストの評価を分けて見ると、リナは来日 2 年間の後に、中国語の会話能力は落ちたものの、日本語の会話能力が著しく伸びたと思われる。

2言語のOBC会話テストの結果を見ると、リナの中国語の到達度は年齢相応のレベルに達していないこと、日本語会話能力は来日後2年間で相当伸びたが、まだ年齢相応のレベルには達していないことがわかった。両言語の到達度がともに高くないと考えられる。そのため、このままでいけば、リナの2言語の到達度は完全に「ダブル・リミテッド・バイリンガル」になる恐れがあると見られる。

#### 第4章 保護者の言語教育観

リナの保護者に2度の対面インタビューをし、保護者の言語教育観を調査した。インタビュー1の中で、母親はリナの日本語の上達を重視し、日本にいるのだから、中国語を忘れることにあまり神経質になる必要はないと思っていた。インタビュー2では、日本語は重要だが、中国語を忘れると大変なことになるとも意識している。親の意識の変化はリナが言語指導を受けている状況の変化から読み取れる。

さらに、2つのインタビューから、保護者が来日後のリナの言語教育に関して抱えている問題として、親がリナの日本語学習を支援できない問題と日本でほかの同じ立場にある中国人の子どもの教育情報も得にくい問題を纏め、解決法を提案した。

#### 第5章 考察と今後の要望

以上がリナの来日後一年半の言語環境・学習状況を追ったものである。言語学習については、子どもはそれぞれの特性を持っており、リナの状況を他の在日中国人児童の言語学習にまで一般化することはできないため、今後、在日中国人児童の言語学習に関する大規模の調査を行う必要があると考える。

#### 【参考文献】

- 石井恵理子(2000)「ポルトガル語を母語とする在日外国人児童生徒の言語教育に関する父母の意識」『日本語科学』5 pp.116-136 国立国語研究所
- 岡崎眸(2000)「多言語・多文化社会を切り開く日本語教育」『多言語・多文化を社会を切り開く日本語教員養成』お茶の水女子大学日本語教育コース
- 小野博(1989)「二か国語教育と言語能力」月刊『言語』Vol.18, No.10, 52-53, 1989
- カナダ日本語教育振興会(2000)『子どもの会話力の見方と評価ーバイリンガル会話テスト(OBC)の開発』ひつじ書房
- 川上郁雄(2003)「年少者日本語教育における「日本語能力測定」に関する観点と方法」『早稲田日本語教育研究』第2号 早稲田大学大学院日本語教育研究科
- 中島和子(2002)「バイリンガル児の言語能力評価の観点ー会話能力テスト OBC 開発を中心に」『多言語環境にある子どもの言語能力の評価』(日本語教育ブックレット 1)、国立国語研究所
- 中島和子(2008)『バイリンガル教育の方法 12歳までに親と教師ができること』アルク 2001年の改定
- 志水宏吉、清水睦美(2001)『ニューカマーと教育学校文化とエスニシティの葛藤をめぐって』明石書店
- 朱峴淑(2002)「日本語を母語としない児童の母語力と家庭における母語保持ー公立小学校に通う韓国人児童を中心に」『言語文化と日本語教育』第26号 お茶の水女子大学日本語文化学会
- 牧野成一・鎌田修・山内博之・齊藤眞理子・荻原稚佳子・伊藤とく美・池崎美代子・中島和子(2001)『ACTFLーOPI 入門』アルク。

- 御手洗靖・竹内舞子(2002)「日英同時バイリンガル幼児における言語切り替えおよび通訳行動」『大分大学教育福祉科学部研究紀要』第 24 号
- 穆紅(2006)「言語少数派の子どもの日本語認知力の獲得に関わる要因: 母語と日本語の関係に注目して」『人間文化論叢』第 9 号
- 朴貞玉(2009)「日本における韓国人父母の言語教育観: 父母の日本滞在歴と子どもの教育レベルを中心に」『人間文化創成科学論叢』第 11 号 お茶の水女子大学大学院人間文化創成科学研究
- 桶谷仁美(2007)『家庭でバイリンガルを育てる—0歳からのバイリンガル教育』明石書店
- 2010年3月東京女子大学の「外国人児童生徒の日本語力・母語力の育成: 基礎講座とOBC実践ワークショップ」配布資料
- Cummins,J.(1979). “Linguistic interdependence and the Educational Development of Bilingual Children,” Review of Educational Research. Reprinted in Baker, C. & Hornberger, N. H. (2001) An introductory reader to the writings of Jim Cummins. Clevedon, UK: Multilingual Matters.
- Cummins,J.(1984). Bilingualism and Special Education: Issues in Assessment and Pedagogy. Clevedon: Multilingual Matters.
- Cummins,J.(1996). Negotiating identities: Education for Empowerment in diverse Society, Ontario: Clalifornia: Association for Bilingual Education.
- Landry,R. and R.Allard (1992). Ethno linguistic Vitality and Bilingual Development of Minority and Majority Group Students’ In W. Face, K.Jaspaert and S.Kroon (eds.) Maintenance and Loss of Minority Languages John Benjamins
- Skutnabb-Kangas,T. (1999). “Linguistic Human Rights: Are You Naive, or What?” TESOL Journal. vol.8, No.3.
- Thomson, L. (1995). Foreign Language Assessment. A bibliography. Washington,DC.